

出席停止になる主な学校感染症

《おもな学校感染症一覧表》

もしかかったら・・・
学校をおやすみしてください。

下の一覧表にあげた病気は、『学校感染症』といわれ、たとえ軽症でも登校できません。かかったら学校に連絡し、医師の許可があるまで家庭で安静にしてください。これは法律で定められた『出席停止』で、欠席扱いにはなりません。



【第一種学校感染症】 治癒するまでを出席停止とする(原則入院)

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、鳥インフルエンザ(H5N1)

【第二種学校感染症】

学童によく起こる感染症。出席停止期間、患者の隔離については守る。診断がついたら、速やかに学校へ連絡する。

感染症の種類	出席停止期間の基準	主な症状	侵入経路	潜伏期間	感染可能期間	予防方法
インフルエンザ (鳥インフルエンザを除く)	発症後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで	発熱、頭痛、腹痛、全身倦怠、鼻づまり、くしゃみ、たん	気道 飛沫	1～3日	発病後3～4日	マスク、うがい、てあらい、予防接種(菌型が異なると効力なし)
百日咳 	特有の咳が消失するまで または、5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	はじめは軽い咳、のどの発赤がみられる。発病後1週間くらいからコンコンという咳が出る。	気道 飛沫	1～2週	発病後28日	患者に近づけない。 予防接種(三種混合)①生後3～12ヶ月中に3回 ②①終了後12～18ヶ月③12歳に達する年(百日咳はなし)
麻疹 (はしか)	解熱した後 3日を経過するまで	発熱、咳、鼻水、めやに。頬の内側に白い斑点(コプリック斑)ができる。発熱後4日目より皮膚に発疹。	気道 飛沫	9～12日	発疹の出る5日前から出た後4日間	患者の隔離 予防接種(麻疹・風疹混合ワクチン) ①生後12～24ヶ月 ②小学校就学前の1年間
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日経過し、かつ、全身状態が良好になるまで	37～38℃の発熱。まず片側、ついで両側の頸の後が大きく腫れて痛む。食欲不振、えん下困難。	飛沫 	1～2週	発病前7日から発病後9日	患者の隔離 患者の唾液のついた物が健康な人の口に触れないように
風疹 (三日ばしか)	発疹が消失するまで	発熱、発疹、耳の後、首、胸の下などが腫れる。咳。結膜の充血	飛沫 気道	2～3週	発疹の出る7日前から出た後の7日間	患者の隔離 予防接種(麻疹・風疹混合ワクチン)
水痘 (水ぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで	水疱のある発疹が体中に次々とする。かさぶたとなり、治る。	飛沫 気道	2～3週	発疹の出る1日前から出た後6～7日	患者の隔離 
咽頭結膜熱 (プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで	発熱、のどの痛み、結膜炎、首のリンパ節の腫れ	気道結膜 接触 汚染物	5～7日	発病後2～3週	眼やのどの健康観察。充血目やにのある者は水泳禁止。 水泳後よく流水で洗う。
結核	症状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認めるまで	初期は自覚症状なし。X線で見ることが多い。疲労感、寝汗、微熱、体重減少、肩こり、咳、たん	飛沫	1～2ヶ月		BCG接種 X線による早期発見 栄養と休養に注意

【第三種学校感染症】 病状により校長が学校医の意見を聞き、感染のおそれがないと認めるまで。

病名	出席停止期	主な症状	侵入経路	潜伏期間	感染可能期間	予防方法
流行性角結膜炎 (はやり目)	病状により学校医その他の医師において	涙がよく出る。めやに、異物が入っている感じ。結膜の充血	気道 結膜 接触 汚染物	5～7日	発病後 2～3週	感染力が非常に強いので患者のさわった物をよく消毒しておく。手洗いの励行
急性出血性結膜炎 (アポロ病)	感染のおそれがないと認めるまで	きつい充血。出血してくる。	結膜 汚染物	1～2日	発病後 5～7日	患者のさわった物をよく消毒しておく。手洗いの励行
腸管出血性大腸菌感染症 コレラ、細菌性赤痢 腸チフス・パラチフス		激しい腹痛、水様性下痢。嘔吐	口	3～5日		手洗いの励行。加熱消毒を十分にずる
その他の感染症		※条件によっては、出席停止の措置が必要と考えられる感染症の例 溶連菌感染症・ウイルス性肝炎・伝染性紅斑(りんご病)・手足口病・ヘルパンギーナ・マイコプラズマ感染症・流行性嘔吐下痢症 いずれも症状が改善し、全身状態がよければ登校可能				

※新型コロナウイルス感染症は、令和2年2月、第一種学校感染症に指定されました。